

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成28年12月30日 (N0.85)



浦幌町教育委員会

浦幌町教育研究所

CS拡大委員会

2月1日(水)18時、第3回浦幌町小中一貫CS委員会(林会長)を開催します。

今回はすべての校長、教頭、PTA会長が加わる拡大委員会とし、今年度の成果と課題、両学園の活動交流及び懇親会を行います。

幕別町教育研究所から視察

■12月27日、幕別町教育研究所の佐藤充弘所長(白人小校長)、椿原雅章副所長(幕別中教頭)が来町され、コミュニティ・スクールを基盤とした小中連携・一貫教育の進め方について協議しました。主な協議事項は次の通りです。

①小中協働の組織づくり ⇒ 小中一貫教育を担う教職員が、まず取組の必要性を理解し、実践のための小中協働の組織を構想する。校務分掌との連動を図るなど負担感の軽減を図る。

②「熟議」の必要性 ⇒ 小中一貫教育では、9年間を見通した「学校教育目標」や「目指す子ども像」を作成するために「納得のプロセス」が不可欠である。そのために「熟議」が必要であり、時間を要するが、ボトムアップの取組が当事者意識の高揚につながる。

③一体的な運営体制の確立 ⇒ 地域ぐるみのコミュニティ・スクール導入を視野に入れながら、9年間の連続性と系統性をもった小中一貫教育から着手していくことが望ましい。その際、教育長や校長のリーダーシップの発揮が求められる。(同日午後からは浦幌学園を訪ね、具体的実践の交流をされました。)



幕別町教育研究所の皆さん

スマホ・ゲーム機使用の取組

■文部科学省指定の「学校評価システム構築事業」が、スクールアナリスト(慶應義塾大学 SFC 研究所 木幡敬史上席所員)の指導・助言によって進められています。浦幌学園、上浦学園ともに、保護者からのアンケート等による実態把握をもとに「熟議」を重ね、アクションプランの課題設定、論点整理を行ってきました。

■両学園とも共通した課題が明らかになり、とりわけ「スマホ・ゲーム機使用のルール」については、児童・生徒、保護者、地域の方々がそれぞれ「熟議」を行い、作成したルールをもとに各家庭における約束を決め実践していきます。



上浦幌学園の皆さんによる「熟議」